

展示予定作品

下記の作者以外の作品も展示します。



「温泉茹卵の柵」

棟方志功 (むなかた しこう) 1903～1975

1903年 青森県青森市生まれ 小学校卒業後、家業の鍛冶職を手伝いながら、風絵とねぶたに熱中し、独学で武者絵を描く 1924年 21歳で上京して絵の修行を始める
1928年 油絵「雑園」で帝展に初入選。この年から吉川龍生、川上澄生の影響で版画の道に入る。
1936年 国画会展に出品した「大和し美し版画巻」が日本民芸館の蔵品となりこれを契機に、柳宗悦・河井寛次郎、浜田庄司らの民芸運動の人々と交わり、その影響から存在感のある女性美、仏教的境地を描く独特の版画を発表。
1952年 ルガノ国際版画展優秀賞、1955年(昭30)、サンパウロ・ビエンナーレで版画部門最高賞、翌年、ベニス・ビエンナーレで国際版画大賞などを受賞し、国際的にも評価される。
昭和38年、47年の二度にわたり野沢温泉を訪問し作品を残す。「野沢明韻」他数点展示



「黒い太陽」

岡本太郎 (おかもと たろう) 1911～1996

1929年 東京美術学校西洋画科に入学、半年後に中退、12月父母に伴い渡欧。
1932年 ピカソの作品を見て衝撃を受け、抽象芸術を志す。
1934年 はじめての画集「OKAMOTO」がG. L. M. (パリ) から刊行。
1938年 ハリ大学でマルセル・モースに師事し民族学を学ぶ。
国際シュールレアリスム・パリ展に『傷ましき腕』を出品。
1940年 ドイツ軍のフランス侵攻により、最後の引き揚げ船・白山丸で帰国。
1970年 日本万国博覧会シンボルゾーンに『太陽の塔』完成。
1974年 野沢温泉にハネス・シュナイダーの記念碑を制作。
1979年 野沢温泉村が観光宣伝映画「岡本太郎のスキーと火祭り」を制作。
1988年 「乙女象」を制作。野沢温泉村に贈る。
1991年 野沢温泉村名誉村民となる。
1996年 1月急性呼吸不全により死去(享年84)
当館所蔵の「黒い太陽」等を展示



複製「鯉」



「野沢温泉遠望」

笠松 紫浪 (かさまつ しろう) 1898～1991

大正時代から昭和時代にかけて活躍した浮世絵師、版画家。
平成28年に篠原氏より寄贈された複製の「鯉」等を展示

小山 オサム (こやま おさむ) 1936～

飯山市生まれ 油彩で数多くの風景画を手掛けている当館でも
9回程作品展を開催しており、当館所蔵の油彩画を展示

交通案内

- ◆北陸新幹線・飯山線ご利用の場合／飯山駅下車。
野沢温泉ライナー(約25分)、または長電バス(野沢線)約40分。
バス停「野沢温泉」から約5分。
- ◆お車ご利用の場合／上信越道「豊田飯山IC」から約30分。
※大型・中型バス等は当施設の駐車場までは直接お越し出来ません。

